

# 井上ひさしさん追悼の講演会

九条の会呼びかけ人の一人井上ひさしさんの追悼講演会が開かれました。その模様を氏の地元の **山形新聞** が詳しく報道しています。様子をその記事からお伝えします。

### ★大江健三郎さん沢地久枝さん奥平康弘さんがおはなし

川西町出身の劇作家 作家井上ひさしさんが呼び掛け人だった「九条の会」の講演会が19日、東京 千代田区の日比谷公会堂で開かれ、4月に死去した井上さんを追悼して、一緒に活動してきた作家の大江健三郎さんと沢地久枝さん、東京大名誉教授の奥平康弘さんが、約2000人の満員の聴衆を前に「井上さんの心をそれぞれの仕方でも受け継いでいきたい」などと話した。

### ★大切なものは裏切ってはならない

大江さんは、九条の会の呼び掛け人だった評論家加藤周一さんをしてのんだ井上さんの昨年の講演をテーマに語った。「自分にとって大切なものは裏切ってはならないー私が加藤さんの本から学んだ大きな教訓です」。井上さんのこの言葉について大江さんは「豊かに、感情を込めて心が表現してある」さらに「その志、心が目指すところを演劇や小説の創作にもつないだ」と述べた。



### ★あとにつづくものを信じて

奥平さんは井上さんの戯曲「ムサシ」に触れた。「武士は刀を取ってはいけない」という平和的メッセージは「憲法9条の精神を語っている」と指摘。沢地さんは、最後の作品「組曲虐殺」で、主人公の作家小林多喜二が歌う歌詞「あとにつづくものを信じて走れ」を引き合いに出し「別れはつらいけど、井上さんの気持ちを継いで生きていかなければならない」と語った。

### ★9条への深い思い

冒頭、井上さんが生前憲法について語った映像を上映。講演の間には、川西町フレンドリープラザ付属演劇学校で、校長の井上さんの下で教頭として指導した佐藤修三さん（秋田市）が、小説「吉里吉里人」の中から憲法9条に関連する一節を、味わい深い方言で朗読した。井上さんの妻ユリさんが、この一節を選んだ理由を「9条への深い思いが、井上ひさしにしかできない論法で、すべて表現されている」と説明した。

# おがわ町九条の会総会

日時 9月 5日(日) 午後1時30分

会場 図書館 視聴覚室

外ラクソソ 落語

## 三笑亭可龍



三笑亭可龍 (さんしょうていかりゅう)

(社)落語芸術協会 所属

1978年8月 東京都府中市出身

1996年12月 九代目三笑亭可楽に入門

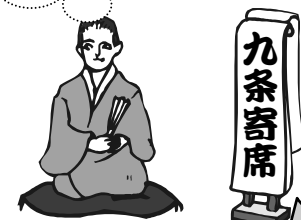
1997年4月 可壽男(かずお)で前座

2001年4月 二つ目昇進 三代目可龍となる

2010年5月 真打昇進

ホームページ <http://karyu.nomaki.jp/index.htm>

私、三笑亭可龍、本名を「黒沢民人」と申します。何を隠そう私、小川町増尾在住の黒沢敏明の甥っ子です。日ごろ伯父さんがお世話になっております。5月に真打に昇進したばかりで毎日死ぬほど忙しいのですが、伯父さんの頼みとあっちゃあ仕方方がねー。喜んで「おがわ町九条の会」の総会に駆けつけます。日本の伝統芸能「落語」をたっぷりとお楽しみください。



## ご案内

### ◆第五回町民コンサート (詳しくは次号でお知らせします)

日時 10月16日(土)午後2時 会場 パトリアおがわ  
出演 大塚秀子 遠藤ひとみ 大塚幸穂 藤崎陽子 岡部上 岡部洋子 ハピートレイン

### ◆国民平和行進 (同実行委員会 原水爆禁止比企地域協議会主催)

日時 7月10日(土)午前10時 小川町役場前集合

### ◆小川町平和のための戦争展 (同 実行委員会主催)

日時 8月19日(水)~22日(日) 会場 小川町図書館

# 「一度あった事は二度とない」 に変えてゆこう！ 平和で塗りつぶしていこう！

6月23日、戦後65年を迎えた、沖縄「慰霊の日」。戦没者追悼式が糸満市摩文仁の平和祈念公園で行われました。



会場を訪れた県民からは「2度と悲惨な戦争を起こしてはならない」「米軍はいざとなっても沖縄を守ってくれない。早く基地を撤去してほしい」「首相はアメリカに基地はいらぬとはっきり言うべきだ」などと訴える声が相次ぎました。

## 過重な基地負担の軽減を

今年4月には米軍普天間飛行場の県外・国外移設を求める県民大会が開催され、超党派の約9万人（主催者発表）が結集。戦後65年経過した今もなお、過重な基地負担の軽減を訴え続ける沖縄の現状があります。

## 「平和の礎」に80人

戦没者の名を刻んだ「平和の礎」や糸満市米須の「魂魄の塔」など県内各地の慰霊碑には、朝早くから遺族、子や孫らが訪れ、花を手向けるなど犠牲者をしのび、恒久平和の誓いを新たにしました。「平和の礎」には、今年新たに80人（内訳は県内26人、県外53人、海外1人）を刻銘。総数は24万931人となりました。

## 沖縄戦犠牲者は20万人以上

沖縄戦は、太平洋戦争末期に本島や周辺の島々で展開。住民も戦場に駆り出され、沖縄は、日米の軍人を含めて20万人以上が犠牲になった、現在の日本国領土内で唯一地上戦が戦われた土地です。

## 平和の詩「変えてゆく」

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の近くに住む県立普天間高校3年の名嘉司央里さん（17）が、平和の詩「変えてゆく」を朗読し、感動を呼びました。長いものですが、次ページに全文を掲載します。

（参照 HP <http://www.ustream.tv/recorded/7836552>）

朝日新聞  
6/24



## 変えてゆく 普天間高校3年 名嘉司央里

今日もまたはじまる  
いつもの日常  
当たり前前に食事をして  
当たり前前に好きなことを学んで  
当たり前前に安心して眠りにつく  
そんな普通の日  
今日もまたはじまる  
いつもの日常  
当たり前前に基地があって  
当たり前前にヘリが飛んでいて  
当たり前前に爆弾実験が行われている  
そんな普通の日  
一見「平和」に思えるこの小さな島  
そこにいつの間にか当たり前ではない  
当たり前であってはならないものが  
入り込んでしまっていた  
普通なら受け入れられない現実を  
当たり前前に受け入れてしまっていた  
これで本当にいいのだろうか  
平凡な幸せを感じながら  
ただただ「平和」を望む今

簡単にこの違和感を  
無視していいのだろうか  
黒いたくさんの礎  
刻まれるたくさんの名前  
そこで思い知る  
戦争が残した傷跡の大きさ深さ  
何も幸せなど生まれなかった  
何も手に入れたものなど無かった  
すべて失ったものばかりだった  
忘れてはならない  
この島であった悲しい記憶  
目を背けてはならない  
悲しい負の遺産  
それを負から正に変えてゆく  
それがこの遺産を背負い生きてゆく  
私達にできること  
変えてゆくのは難しい  
しかし一人一人が心から  
負である「戦争」を忌み嫌い  
正である「平和」を深く愛する  
そんな世界になれば  
きっと正の連鎖がはじまるはずだ  
六月二十三日 慰霊の日  
あの黒いたくさんの礎には  
たくさんの人々が訪れる  
そして その一つ一つの名前に触れ  
涙を浮かべながら語りかける  
「今年も会いに来たよ」と  
手を合わせ目を瞑り祈りを捧げる  
その訪れた人々に  
「平和」を願わないものはない  
「一度あった事は二度ある」  
そんな言葉を聞いたことがある  
しかし こんな悲惨な出来事は  
もう繰り返してはならない  
だから…  
「一度あった事は二度とない」に  
変えてゆこう 平和で塗りつぶしていこう  
その想いはきっと届いているはずだから